

校訓

仁義礼智信

I 学校教育目標

◎キャッチフレーズ 「文武両道」

1 基本目標

知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と、生きて働く学力と
健やかな心と体を育む生徒の育成

めざす生徒像（具体目標）

- 考 え る 生 徒 （知）
- 思 い や る 生 徒 （徳）
- き た え る 生 徒 （体）

めざす学校像

- 生徒・保護者・地域に期待され、信頼される学校
- 時代に対応するための「新しい教育」を創造できる学校
- 職員の協働態勢が充実し、組織としての力が発揮できる学校
- 「家庭」・「地域」と連携して教育活動を推進できる学校
- 「不易」と「流行」を見分けて企画・運営できる学校

めざす教師像

- 情熱と使命感をもち、指導力の高い教師
- 常に「自己を振り返る」ことのできる教師
- 生徒理解に努め、進路指導（キャリア教育）のできる教師
- あたたかい人間力のある教師
- 師弟同行の精神で、実践力のある教師

2 めざす生徒像（具体目標）の具現化

(1) 考える生徒

- ① 学習に集中できる生徒
- ② 筋道を立てて考えることができる生徒
- ③ 積極的に発表できる生徒
- ④ 協力して考えを深めることができる生徒
- ⑤ 学習したことを他分野に生かすことができる生徒

(2) 思いやる生徒

- ① 他の者の立場に立って考えて行動できる生徒
- ② 奉仕をすることができる生徒（進んで奉仕活動ができる・力をあわせて清掃ができる等）
- ③ 正しい言葉遣いができる生徒

(3) きたえる生徒

- ① 力いっぱい最後までやりとげる生徒
- ② 規則正しい生活ができる生徒
- ③ 健康や安全に気をつけて行動できる生徒

II 学校経営の基本方針

- 1 各法の精神に則り、群馬県及び太田市の教育方針並びに本校の生徒の実態等を踏まえた教育課程を編成し、その充実に努める。
- 2 新学習指導要領の完全実施に向けた「新教育課程」を確立する。
- 3 組織としての協働及び全職員の英知を結集して諸課題の解決に努める。
- 4 「同僚性」・「一枚岩」を組織として発揮し、全教職員が一丸となって教育目標の実現に努める。
- 5 心の在り方としての「校訓」を定め、日々の生活に活かし、生徒の人格形成のために、全教育活動を通して、その指導に努める。
- 6 校風の樹立と伝統づくりのために、生徒・保護者・地域が一体となって教育活動に取り組む。

III 本年度の努力点

学校教育目標達成のために、本校の「学校経営の基本方針」や「指導の重点」に対して、全教職員が共通理解を深めるとともに、新学習指導要領の完全実施に向けて、全体・個別計画及び指導の方針を策定し、教師一人一人の識見や能力を高め、校内の指導体制を確立する。

1 「安全・安心」で過ごせる教育環境づくりに努める。【環境力】

- (1) 花や緑に囲まれ「安全・安心」で、落ち着いて学習できる環境づくりに努める。
- (2) 本校の重点行動であり、特色である「あいさつ」「清掃」「緑化」の活動を充実させ、教育環境の基礎・土台の強化を図り、教育活動の推進に努める。
- (3) 生徒指導を充実させ、生徒理解に立った「心の絆づくり」としての、いじめのない楽しい学校づくりに努める。
- (4) 健康・安全教育としての防犯体制や訓練及び情報モラル等の学習を通して、ケガや事故・事件の防止に努める。
- (5) 環境を大切にし、よりよい環境づくりや環境保全に配慮できるような活動に努める。

2 「生きる力」を身に付けた生徒の育成に努める。【人間力】

- (1) 「文武両道」の精神を身に付けた生徒の指導に努める。
- (2) 「確かな学力」「豊かな心」「健康な身体」の調和のとれた指導の工夫に努める。
- (3) 週時程に「朝読書」を位置づけると共に、後期は、週1回「学習デー」を設定し、生き方教育や学力の向上に努める。
- (4) 「ライオンズクエストのプログラム」を活用するなど、道徳教育を充実させ、多様な体験活動を通して道徳的実践力を磨き、「命を大切にする心」「豊かな心」「思いやりの心」「伝え合う心」の育成に努める。
- (5) コミュニケーション能力を育む国際理解教育、コンピュータを活用した情報教育、ボランティア活動等を通じた社会奉仕体験活動、自然体験活動等の充実を図り、情報化・国際化・高齢化・環境問題等、社会の変化に柔軟に対応できる力の育成に努める。
- (5) 生徒指導の申し合わせ事項について共通理解し、職員が一枚岩となって指導に

あたり、基本的な生活習慣の徹底に努める。

- (6) 体育的諸活動を組織的・計画的に実践し、体力の向上を目指すとともに、健康安全教育を充実させ、心身の強化に努める。また、部活動は、生徒にとって存在感が大変大きいことを認識し、適切な指導・対応に努める。

3 研修を充実させ、「授業力」の向上に努める。【教師力】

- (1) 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせた上で、生徒の主体的な学習を促し、生涯を通じて学ぼうとする態度を育成するため、一人一人の教師が指導技術を磨き、教育内容・指導方法の改善に努める。
- (2) 全教員が、ライオンズクエストの指導のため、セミナーやワークショップに積極的に参加したり、「提案授業」等を通して、研究協議をするなど、授業力の向上に努める。
- (3) 集団づくり・学級づくりや仲間づくりを基礎とした、総合的な働きかけの中で、基礎学力が向上するような指導力の向上に努める。
- (4) 指導方法や評価方法の改善に関わる校内研修を通して、「わかる授業」を実践し、基礎的・基本的な内容が身に付くよう努める。
- (5) 特別支援教育の推進に向けて生徒一人一人の状況に応じた適切な指導を行い、日々の学校生活が充実したものになるように努める。また、特別支援教育について、全教職員が研修に取り組み、毛里田中学校における特別支援教育体制の確立に努める。

4 「評価」を生かした学校運営に努める。【学校力】

- (1) 家庭及び地域社会の願いを理解し、より一層の連携・協力を図り、各地区行事へ参加させることで、生徒の心身ともに健全な育成と、信頼し合える学校づくりに努める。
- (2) 毎月、「学校公開デー」を開催し、教師の指導の姿や、生徒の1日の生活について参観していただくことで学校を理解していただき、併せて学校評価（アンケート）に活かせるよう努める。
- (3) 校内評価委員会を充実させ、本校の「評価システム」を構築し、総合力の高い学校運営に努める。
- (4) 管理職が、日常的に各学級の授業を参観し、「評価・検討・協議」を通して、教科、道徳、特別活動等の授業改善の推進に努める。
- (5) 各行事等の実施後、振り返りとしての評価を行い、今後の諸行事の改善・充実に努める。
- (6) 外部評価・外部アンケート・内部評価を実施し、家庭・地域に対して改善策や努力点等、具体的な実践内容を積極的に公開するとともに、開かれた学校づくりに努める。

IV 本年度の指導の重点

1 各教科指導の充実

- (1) 基礎的・基本的内容を明確にした指導を徹底させるとともに、少人数学習やティームティーチングによる指導の工夫と個に応じた指導習熟の程度に応じた指導方法や指導体制を工夫し、生涯にわたって学んでいこうとする意欲を育てる。
- (2) 体験的な活動を重視し、自主的・自発的な学習を促すとともに、コンピュータ等の教育機器（ICT活用）や地域の教材及び人材の積極的な活用をすすめる。
- (3) 生徒の柔軟な思考力や豊かな創造力・表現力・判断力を育てるために指導内容・方法および評価の一層の改善を図る。

2 総合的な学習の時間の充実

- (1) 生徒一人一人の興味や関心に基づき、ゆとりを持って問題解決や探求

活動に主体的・創造的に取り組む態度の育成を図り、自己の生き方の自覚を深める。

(2) 生徒の学習活動への支援を効果的に行うため、教師の共通理解や協力体制を充実させる。

3 道徳教育の充実

(1) 生徒間や教師と生徒の人間的触れ合いを深め、「人間の生き方」に対する指導を充実させる。特に、規範意識を高め、命を大切にする心や思いやりの心と行動を育むとともに、いじめをなくすなど、豊かな心を育てる。

(2) 道徳の時間を柱として、各種行事の指導や日々の教育活動全体を通して、道徳的な実践力を育てる。

(3) ボランティア活動を重視し、互いにいたわり助け合う思いやりの心と、他人の立場や考えを尊重する気持ちを培う。

4 特別活動の充実

(1) 学級活動・生徒会活動における自発的・自主的な活動を活発化させ、健全育成に努める。

(2) 生徒の自主的活動を尊重し、生徒会活動や各専門委員会の活動の指導を工夫する。

(3) 緑化活動・エコ活動を通して、地球環境を守ろうとする生徒の育成に努める。

5 生徒指導の充実

(1) 生徒に正しい判断力を培い、自主的に自己実現を図る能力と姿勢を育てるための「支援と援助」の生徒指導を行う。

(2) 家庭、地域社会との連携を一層深め、いじめ、不登校等の早期発見、早期指導に努める。そのために、担任・学年主任・生徒指導主事・養護教諭・悩み事相談員・スクールカウンセラーと家庭・地域社会・関係諸機関が密接な連携を図り、全ての教職員によるきめ細かな教育相談と適応指導の充実を目指す。

(3) 生命を尊重し、健康・安全、特にたばこ・薬物乱用防止についての理解を深め、自らの健康の維持・増進、事故防止に努める態度を育成する。

(4) 人間の性に関する理解を十分に深めさせ、成長過程における課題に適切に対応できるよう援助・指導を行う。

(5) 交通指導はきめ細かく、そして常時指導で行ない、一人の交通事故被害者・加害者を出さない。

6 キャリア教育（進路指導）の充実

キャリア教育としての進路指導を、「人間の生き方の指導」と位置づけ、学校の教育活動全体を通して、生徒が自己理解を深め、将来にわたる生き方を考え、主体的に進路を選択する能力と望ましい勤労観・職業観を身に

付けることができるよう指導内容・方法の改善・充実に努める。

(1) 様々な場面をとらえて生徒に自己を見つめる機会を与え、自己の適性を把握させるなど、自己理解を図らせ、多様な可能性の発見に努める。

(主として第1学年)

(2) 職場体験や勤労生産・奉仕的な活動を通して、自ら将来にわたる生き方を考え、主体的な進路選択能力と望ましい勤労観・職業観を育てる。

(主として第2学年)

(3) 生徒一人一人の個性や適性に応じた、きめの細かい進路指導・進学指導を推進し、主体的な進路選択と将来設計ができる能力を育てる。

(主として第3学年)

V 本年度の「特別重点行動」

=東日本大震災における教訓を学び生かした環境行動を実践する=